

まちづくりの進め方

【24】 協働・共創のまちづくり

1 10年後に目指したい将来像

こども・若者を含む多様な属性の市民、事業者・団体等及び市が、それぞれの強みを発揮しながらまちづくりが進められています。あわせて、目的を相互に共有することで、高等教育機関を含む多様な主体が、異なる視点や価値観のもと、対話と試行錯誤を重ね、相互に連携し、一体となって三田のまちを元気にする協働・共創の取り組みが行われています。

	2 10年後に心配される三田の状況	3 10年後に目指したい三田の状況	取り組み
A	市民、地域、事業者・団体等及び市の活動が活発に行われているが、お互いの活動に関心を持っておらず、その思いについて知る機会がないこと	活動している人々や団体が、どのようにまちや地域の課題を認識し、その解決に取り組んでいるのかを知り、共感できるようになっていること	①
B	活動する市民や団体等の相互の連携が十分ではないことがあり、結果として活動の成果が上がりにくくなっていること	市民や団体等の活動の連携がとられておりまちづくりや地域づくりが効果的に行われていること	②
C	事業者や大学等の力をまちづくりに生かす「公民連携」は進んでいるが、既存のサービス、商品、研究成果等を活用するにとどまり、具体的な課題の解決の成果が上がりにくくなっていること	これまでの取り組みに加えて、具体的な課題を解決するためにサービス、商品、研究成果等のアレンジがなされており、課題解決に資するだけでなく、イノベーションのきっかけにもなっていること	③
D	市民活動、地域活動、公民連携が活発に行われているものの、それぞれが別個のものとして取り扱われることで、結果として取り組みに過不足が生じている懸念があること	こども・若者を含む多様な属性の市民、地域、事業者・団体等がその垣根を越えて目標や課題を共有してまちづくりを行うことで、課題の解決にとって大きな力となっていること	④

4 取り組み

市民

- ◆地域で行われている他の活動にも関心を持ち、自分たちのできることや得意なことを役に立てたいという意識を持ち続けます。
- ◆多様な人々の意見に耳を傾けながら、多様性と調和に基づく地域づくりを心がけます。
- ◆地区外の団体、事業者とも良好な関係を築きます。
- ◆まちや地域の目標を設定・共有し、多様な主体と連携することで、地域の課題の解決に取り組みます。

事業者・団体等

- ◆協働・共創のプラットフォームに積極的に参加し、まちや地域の課題を知るように努めます。
- ◆まちや地域の課題に対して、有している資源やノウハウを活かしてその解決に取り組みます。

市

①協働・共創の機運醸成

市民、事業者・団体等に必要な情報を広報誌や SNS 等を活用して積極的に提供するほか、多様な主体による活動やそこに込められた想い等を届けることで、それぞれの活動への共感を喚起します。

②市民活動等の連携の推進

市民、事業者・団体等及び市が相互に情報共有やマッチングを進められるよう、情報をデジタル化、オープン化するとともに、コーディネーターなどの中間支援機能の充実を図り、交流機会の創出やモデル事例の発信をすることで、好事例を横展開し、多くの地域で課題解決に取り組むことができる環境づくりに取り組みます。あわせて、課題解決に意欲ある人々のチャレンジをみんなで支える仕組みである協働事業提案制度を活用し、活動団体等が交流できる機会の創出と新たなネットワークづくりに取り組みます。

③公民連携の推進による地域の課題解決

「公民連携先進都市」として、高等教育機関、事業者等と、地域の課題を連携して解決するためのネットワークを形成することで、先進的な解決策の創出やその実行に取り組むとともに、地域発のイノベーションを生む土壌づくりに取り組みます。

④協働・共創のプラットフォームづくり

こども・若者を含む多様な属性の市民、地域、事業者・団体等、高等教育機関及び市が、対等な立場で地域課題について目標などを共有し、多様な意見が尊重されつつ、その解決に向けて取り組むことができる開かれた基盤（プラットフォーム）を整え、世代や立場を超えた協働・共創を推進します。

◆評価指標

指標名	現状値（基準年）	目標値（R13）
KGI 施策重要度・満足度（市民意識調査）	重要度 3.68pt 満足度 2.97pt	↑
KPI 三田のまちづくりへの関心度	79.8%（R6）	83%
KPI 新たな協働事業提案制度の提案数	16件（R6）	20件
KPI 公民連携により実現した新規事業件数	-	累計 40件

◆主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市まちづくり基本条例
関連計画	三田市協働のまちづくり基本指針